

少しずつ気温が下がり、朝晩の冷え込みが厳しくなり、日中との気温差も徐々に大きくなってきています。

先生方をはじめ、皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

『炎症性腸疾患外来を新設しました』

副院長兼消化器内科部長 徳田 泰司

(専門：消化器内科)

平素より大変お世話になっております。当院は平成 25 年 12 月からの電子カルテ移行に向けて最終段階を迎え、病診連携システムの一層の強化に努めてまいります。

消化器内科のスタッフは現在常勤 5 人ですが、改めて主な診療内容について記します。

1 消化管疾患

① 上部・下部消化管疾患の内視鏡診断と治療

早期胃癌は適応にて粘膜切除術 (EMR) や粘膜下層剥離術 (ESD) 施行

② 消化管出血 (出血性胃潰瘍、食道静脈瘤破裂など) に対する内視鏡的止血術

③ 超音波内視鏡による癌の深達度診断、粘膜下腫瘍の診断

④ 内視鏡的胃瘻造設術 (PEG)

⑤ 炎症性腸疾患の診断治療

2 膵・胆道疾患

① 内視鏡的膵胆管造影法 (ERCP) を用いた検査・治療

内視鏡的乳頭括約筋切開術 (EST)、内視鏡的乳頭バルーン拡張術 (EPBD) による

総胆管結石治療、閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆管ステント留置術 (ERBD, ENBD)

② 閉塞性黄疸や胆嚢炎、肝膿瘍に対する経皮経肝的ドレナージ術 (PTBD, PTGBD 等)

③ 胆嚢病変や膵腫瘍に対する超音波内視鏡診断

3 肝疾患

① ウイルス性慢性肝炎 (B & C 型) に対する治療 (インターフェロン等抗ウイルス剤)

② 肝硬変/肝細胞癌/非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) の診断治療

貴診療所の診療時間からの腹部急性患者 (急性腹症、吐下血、黄疸など) の緊急の御紹介や G I F の御予約依頼等は是非とも病診連携にて対応させていただければと思います。

さて、冒頭にもお知らせ致しましたが、平成 25 年 8 月より名古屋市立大学消化器内科講師谷田諭史先生による「炎症性腸疾患外来」を開始致しました。以前より潰瘍性大腸炎等の炎症性腸疾患を主体とした大腸内視鏡検査を水曜日午後に施行していましたが、内視鏡検査終了後の午後 3 時より 1 時間 (予約外来 2 人) 炎症性腸疾患外来を始めています。

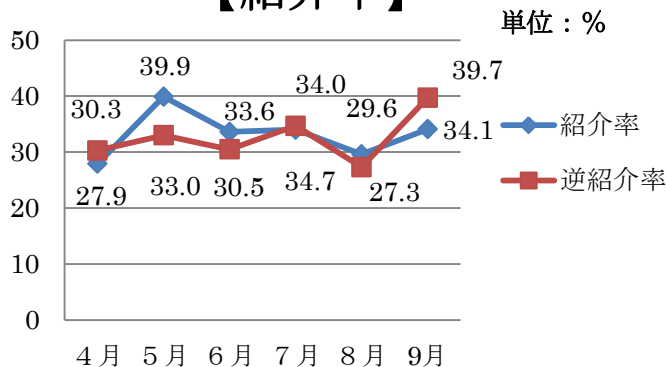
潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ベーチェット病は、新規治療薬 (プログラフ、ヒュミラ、レミケード) により腸管粘膜治癒が可能となってきています。難治例に対しても名古屋市立大学病院での治療実績に裏付けされた (顆粒球除去療法や免疫調整薬を併用した) 効果の高い治療法が提供できるようになりました。若年や成人の頻回下痢、血便、痔瘻など肛門病変がある患者様がみえましたら、ご紹介いただければと思います。

炎症性腸疾患外来：水曜日 PM3:00 より (谷田諭史医師)



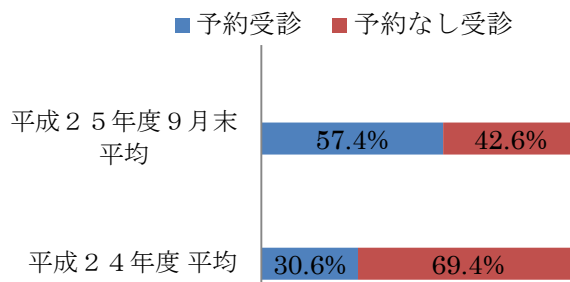
医療統計

【紹介率】

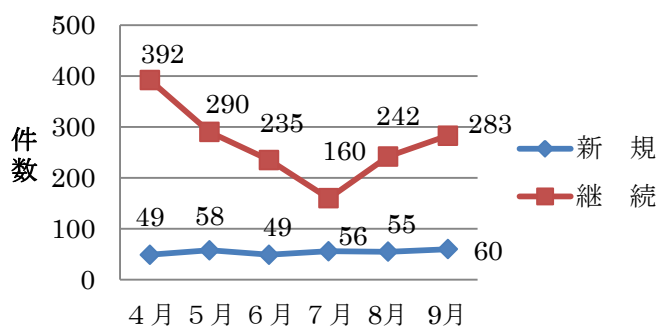


※地域医療支援病院の紹介率で計算

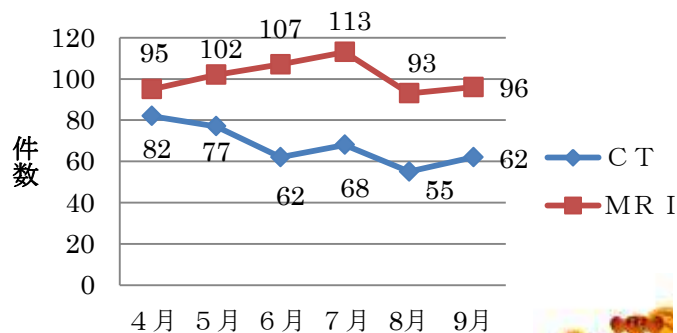
【紹介患者予約率】



【医療相談件数】



【医療機器利用件数】



予約受診のお願い

患者様をご紹介いただく際には、受診予約にご協力をお願い申し上げます。
 なお、当日の予約は原則行っておりません。(ただし、緊急時に関しては直接地域医療連携室へお問い合わせください。)
 また、予約申し込みが多い日は、ご希望に添えないことがございます。あらかじめご了承くださいませよう、よろしくお願い申し上げます。今後も、患者さんの待ち時間短縮とスムーズな診療に引き続きご協力をお願い申し上げます。

電子カルテ導入のお知らせ

当院では、平成25年12月から電子カルテを導入いたします。
 導入により、電子化によるデータの安全性および患者様の待ち時間の短縮を目指してまいります。

その他のお知らせ

地域医療連携室のホームページをリニューアルいたしましたので、ご活用くださいますようお願い申し上げます。

準備期間中、ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。